

17色で描く川口の未来 ～人、自然、文化の豊かさが共生する、いつまでも住み続けたい「選ばれるまち川口」～

埼玉県川口市（2024年度選定）



1. 地域の特徴と課題及び目標	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 良好な交通アクセスと、豊かな緑・水を兼ね備えた都心近郊の住宅都市 ➢ 中小企業・小規模事業者が支えるまち、多文化が共生するまち ➢ 市内外から「住みやすいまち」という評価を受ける一方、地域経済循環率の向上や、都市と自然の共存、カーボンニュートラルへの挑戦などが課題 	2. 関連するゴール
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	2030年に向けて、5つの支柱（支柱1：地域経済が好循環を生み出し、自分らしく働けるまち など）を中心とするまちづくりに加えて、多様なステークホルダーとの連携のもと、自走・自律支援型、魅力向上型の事業を積極的に展開することで、本市が抱える課題を解決し、「住みやすいまち」という枠組みを超えて、人、自然、文化の豊かさが共生する、いつまでも住み続けたい「選ばれるまち川口」を実現する。	

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組
<p>【経済】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 川口駅前や新産業拠点のリニューアルによる経済効果創出 ➢ 市内経済・雇用・都市農業の活性化、多様な働き方の支援 <p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ こどもまんなか社会、多様性を尊重する包摂社会の実現 ➢ 教育力、国際性の向上、新文化芸術活動拠点の整備 <p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ クリーンでグリーンな川口、カーボンニュートラルの実現 ➢ 公共施設等の再編とフロントヤードの改革 <p>【共通の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 川口SDGsパートナー制度

6. 取組成果
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 川口SDGsオリジナルシンボルマークピンバッジを作成し、職員が着用し積極的なPRを行った。 ➢ 川口SDGsパートナー制度を創設。29団体を登録し、連携や情報共有を加速した。 ➢ オリジナルステッカーを作成し、パートナー団体に配布した。 ➢ 9月の「SDGs週間」に合わせ、中央図書館においてSDGs企画展示を実施した。 ➢ 川口市SDGs特設サイトを開設し、本市が推進するSDGs関連事業の情報発信を行った。 ➢ 庁内向けのSDGs研修動画を作成し、今後動画を活用し職員のSDGsの意識を啓発する。 ➢ SDGs啓発用の横断幕・懸垂幕を作成し、SDGsの周知啓発を行った。今後新たに開庁する第二本庁舎にも横断幕を設置し、更なる普及・啓発図っていく。

5. 取組推進の工夫
<p>便利で都会的な要素と、郊外に残る緑を守り活かす新たな取組が相乗効果を生み出すことができるよう、様々なソフト事業とその担い手となる市民の力を連携し、それらの「総合力」によって川口らしいSDGsの取組を進めていく。</p>

7. 今後の展開策
<p>川口SDGs特設サイトを活用し、川口SDGsパートナー団体数を増やしていくこととともに、市やパートナー団体のSDGsに関する取組を積極的に周知し、SDGsの周知啓発を図っていく。</p> <p>また、庁内のSDGs普及促進として、毎月SDGsに関するクイズを作成し、より多くの職員にSDGsに関する意識付けを行っていく。</p>

8. 他地域への展開状況 (普及効果)	SDGs特設サイトを開設し、取組を発信している。
----------------------------	--------------------------

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2024年度選定

埼玉県川口市

2025年9月

SDGs未来都市計画名

17色で描く川口の未来 ～人、自然、文化の豊かさが共生する、いつまでも住み続けたい「選ばれるまち川口」～

自治体SDGsモデル事業

自走・自律支援型、魅力向上型で進めるSDGs 17色の多様で多彩なまちづくり

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

17色で描く川口の未来 ～人、自然、文化の豊かさが共生する、いつまでも住み続けたい「選ばれるまち川口」～

(2) 2030年のあるべき姿

以下で掲げる「2030年のあるべき姿を支える5つの支柱」に沿って、課題解決型、魅力向上型の様々なまちづくり施策を展開し、「住みやすいまち」の枠を超え、人、自然、文化の豊かさが共生する、生涯にわたっていつまでも住み続けたい「選ばれるまち」を推進していく。

- ①地域経済が好循環を生み出し、自分らしく働けるまち ②希望するすべての人が安心して子どもを産み・育てやすく、子どもや若者が夢を描けるまち
- ③健康で、生きがいを持ち、自分らしく、生涯にわたって活躍できるまち ④都市と自然が共存し、カーボンニュートラルに挑戦するまち
- ⑤誰もが安全・安心に暮らせる、都市機能が充実し災害に強いレジリエントなまち

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2024年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	「川口市に住み続けたい」と回答する市民の割合 【11.2,11.3,11.7】	2023年度 86.8 %	2024年度 81.8 %	2030年 90.0	-156%
2	地域経済循環率 【8.3, 9.2,17.16,17.17】	2018年度 58.7 %	データなし	2030年 当初値（58.7%）を上回る	—
3	市内の従業者数（製造業、卸売業、小売業） 【8.2,8.3,9.2,10.2】	2021年度 50,054 人	データなし	2030年 全国における伸び率を上回る	—
4	「川口市は健やかな子育て・子育て環境づくりの推進が図られていると感じる」市民の割合 【4.1,4.2,4.a,10.2,16.2】	2022年度 39.1 %	2024年度 33.9 %	2030年 当初値（39.1%）を上回る	87%
5	市民の65歳健康寿命（男性） 【1.3,3.7,11.7】	2021年 17.22 歳	2022年 17.40 歳	2025年 17.74 歳	35%
6	市民の65歳健康寿命（女性） 【1.3,3.7,11.7】	2021年 20.42 歳	2022年 20.59 歳	2025年 20.89 歳	36%
7	保全緑地面積 【11.7,15.9】	2023年度 18.2 ha	2024年度 16.7 ha	2030年 20.0 ha	-83%
8	温室効果ガス排出量 【11.6,12.8,13.1,13.2】	2019年度 2,273.0 千t-CO2	2021年度 2199.6 千t-CO2	2030年度 1,519 千t-CO2	10%
9	「川口市はさまざまな災害や犯罪などの脅威から市民を守るまちづくりの推進が図られていると感じる」市民の割合 【11.5,11.b,13.1,17.17】	2023年度 30.9 %	2024年度 25.8 %	2030年 当初値（30.9%）を上回る	83%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標1：「川口市に住み続けたい」と回答する市民の割合

・達成度が25%未満となった要因は、令和6年度市民意識調査「川口市の良いところ・嫌いなところ」で「治安が悪い」と回答した割合が前年より19.4%増加したことが一因として考えられる。刑法犯罪認知件数は減少傾向であるが、体感治安の向上によるイメージアップを行っていく必要がある。

●指標4：「川口市は健やかな子育て・子育て環境づくりの推進が図られていると感じる」市民の割合

・当初値を下回った要因は、令和6年度市民意識調査「川口市の良いところ・嫌いなところ」で「治安が悪い」と回答した割合が前年より19.4%増加したことが一因として考えられる。刑法犯罪認知件数は減少傾向であるが、子育て・子育て環境に体感治安は影響があるため、体感治安の向上によるイメージアップを行っていく必要がある。

●指標7：「保全緑地面積」

・達成度25%未満となった要因は、開発圧力の高まりによる都市化の進行に伴う緑地面積の減少が考えられる。都市のレジリエンス向上等、緑地が持つ多様な機能が発揮される都市の実現を目指し、特別緑地保全地区の指定や公有地化を進める。

●指標8：「温室効果ガス排出量」

・達成度が25%未満となった要因としては、エネルギー起源二酸化炭素の全部門において排出量を削減できているが、非エネルギー起源温室効果ガスは増加していることが考えられる。今後も目標達成に向け、減量化や資源化を通じ、温室効果ガスを多く排出するプラスチック類焼却量の減少に努める。

●指標9：「川口市はさまざまな災害や犯罪などの脅威から市民を守るまちづくりの推進が図られていると感じる」市民の割合

・当初値を下回った要因は、令和6年度市民意識調査「川口市の良いところ・嫌いなところ」で「治安が悪い」と回答した割合が前年より19.4%増加したことが一因として考えられる。刑法犯罪認知件数は減少傾向であるが、体感治安の向上によるイメージアップを行っていく必要がある。

【2030年のあるべき姿に向けて共通して取り組む事項】

●DX推進～誰一人取り残さないデジタル社会の実現～

①多様なニーズに応じたキャッシュレス決済の導入（令和6年6～9月）

②行政手続きのオンライン化などに加えて、第二本庁舎の開庁に合わせ、新たに「書かない窓口システム（窓口DXaaS）」を令和7年8月より導入

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2024年 実績	2026年 目標値	達成度 (%)
1	川口駅前や新産業拠点のリニューアルによる回遊性の向上や経済効果の創出	「川口市は地域経済基盤づくりの施策の推進が図られていると感じる」市民の割合	2022年度 29.8 %	2024年度 29.8 %	当初値 (29.8%)を上 回る	100%
2	市内経済・市内雇用の活性化、多様な働き方の支援	市内総生産額	2020年度 14,077 億円	2022年度 15,050 億円	県内市町村における伸び率を上 回る	148%
3	都市農業の振興	市内総生産額（農業）	2020年度 7.82 億円	2022年度 7.69 億円	県内市町村における伸び率を上 回る	-671%
4	子育てしやすいまちづくり、子どもまんなか社会の実現	「川口市は子どもの成長をサポートするための基盤づくりが図られていると感じる」市民の割合	2022年度 35.9 %	2024年度 33.6 %	当初値 (35.9%)を上 回る	94%
5	学校教育の充実、文化・芸術の高揚	「将来の夢や目標を持っている」と回答する児童生徒の割合（小学校6年生）	2022年度 79.2 %	2023年度 81.2 %	当初値 (79.2%)を上 回る	103%
6	学校教育の充実、文化・芸術の高揚	「将来の夢や目標を持っている」と回答する児童生徒の割合（中学校3年生）	2022年度 65.5 %	2023年度 65.9 %	当初値 (65.5%)を上 回る	101%
7	学校教育の充実、文化・芸術の高揚	川口市立高等学校卒業後、大学への進学者と国立大学進学者の割合（大学進学割合）	2022年度 82.1 %	2024年度 88.0 %	2026年 95 %	46%
8	学校教育の充実、文化・芸術の高揚	川口市立高等学校卒業後、大学への進学者と国立大学進学者の割合（国公立大学進学率）	2022年度 7.8 %	2024年度 15.1 %	2026年 15 %	101%

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2024年度

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

No	取組名	指標名	当初値	2024年 実績	2026年 目標値	達成度 (%)
9	介護、医療、保健の充実	要介護認定を受けている高齢者の割合	2022年度 17.2 %	2024年度 18.0 %	推計値 (現状 18.6%)を下回 る	103%
10	介護、医療、保健の充実	「川口市は保健・医療体制が充実し、健康に暮らせるまち、高齢者が生きがいを持ち安心して暮らせるまちと感じる」市民の割合	2022年度 30.0 %	2024年度 27.3 %	当初値 (30.0 %)を上 回る	91%
11	多様性を尊重する包摂社会の実現	重層的支援体制整備事業における世代・属性を問わない交流の場の数	2023年度 32	2024年度 46	2026年度 92	23%
12	多様性を尊重する包摂社会の実現	多文化共生事業の満足度	2021年度 82.0 %	2024年度 91.2 %	2027年度 100%を 目指す	51%
13	循環型社会に向けた、グリーンな川口の推進	1人1日あたりのごみ排出量	2022年度 795 g	2024年度 737 g	2026年 778 g	341%
14	循環型社会に向けた、グリーンな川口の推進	不法投棄通報数	2022年度 7,678 件	2024年度 4,857 件	2026年度 6,253 件	198%
15	カーボンニュートラルの実現に向けた、グリーンな川口の推進	「川口市は省エネ・再エネなど地球温暖化防止に向けた取組を積極的に行っているまちだと思う」市民の割合	2022年度 15.4 %	2024年度 16.8 %	当初値 (15.4 %)を上 回る	109%
16	カーボンニュートラルの実現に向けた、グリーンな川口の推進	市の事務事業における温室効果ガス排出量	2021年度 55,722 t-CO2	2023年度 56,124 t-CO2	2030年度 36,154 t-CO2	-2%
17	人口減少社会を見通した公共施設等の再編・整備や、フロントヤードの改革	公共施設の延床面積	2020年度末 1,489,505 m ²	データなし	効率的な 運営によ る適正な 保有総量	—
18	人口減少社会を見通した公共施設等の再編・整備や、フロントヤードの改革	「川口市は効果的かつ効率的な行財政運営がなされていると思う」市民の割合	2022年度 19.6 %	2024年度 16.4 %	当初値 (19.6 %)を上 回る	84%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

①川口市SDGs パートナー制度の創設

2024年7月に運用を開始した「川口SDGsパートナー制度」は、地方創生SDGs登録・認証制度ガイドラインに基づくSDGs登録制度であり、2025年7月現在で認定パートナー数は29件まで拡大した。

②川口市SDGs 特設サイトの開設

公民連携SDGs プラットフォームの土台として、2025年3月に川口市SDGs特設サイトの開設した。本市が推進するSDGs関連事業の情報発信をはじめ、SDGsに関する基本的な知識についてのわかりやすい解説、川口SDGsパートナーの活動紹介等を行いSDGsの推進を図っていく。

③企業版ふるさと納税制度の活用

本市の寄附額は毎年増加傾向であり、今後もSDGsに関する事業の周知を行っていく。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標3：「市内総生産額（農業）」

・達成度が25%未満となった要因としては、農業者の高齢化や担い手の不足、農地の減少などが考えられ、本市農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いている。販路の拡大、多様な担い手の確保に向けた取組、情報発信、異業種や異分野の人たちとの連携・協力関係を形成していくことが求められる。

●指標4：「「川口市は子どもの成長をサポートするための基盤づくりが図られていると感じる」市民の割合」

・当初値を下回った要因は特定できないが、川口市は東京都に隣接しているため、子ども施策をはじめとした東京都との地域間格差により相対的に満足度が下がっていることが一因として考えられる。子育て妊娠・出産・子育てに対する不安や孤独、孤立の解消、負担軽減など、地域一体となって経済的・精神的・身体的支援を推進し、安心して子どもを産み育てる子育て・教育環境を実現させることで、子どもの成長をサポートするための基盤づくりを推進する。

●指標11：「重層的支援体制整備事業における世代・属性を問わない交流の場の数」

・達成度が25%未満の要因としては、令和5年度32ヶ所あった交流の場を地域包括支援センター圏域に1ヶ所、計20ヶ所増やすことを目標としていたが、圏域全体に波及させる各取組の担い手のニーズ、居場所に求められる機能などのアセスメントが不十分であったと考えられる。対応策としては、本市におけるひきこもり等孤独・孤立状態の方の生活状況やニーズ、課題等を「川口市人々のつながりに関する基礎調査」の実施により、把握、分析し支援の内容を明確化するとともに交流の場を設置する団体を増やすため、川口市みんな居場所設置支援助成金事業の継続が求められる。

●指標16：「市の事務事業における温室効果ガス排出量」

・達成度が25%未満となった要因としては、新規施設の増加等による電力の増加等が考えられるが、令和5年度は平成25年度と比べ、温室効果ガスの排出量は9.3%削減できている。今後もオンライン研修やコラム、クイズ等を活用して庁内でのSDGsへの意識付けを行う。

●指標18：「「川口市は効果的かつ効率的な行財政運営がなされていると思う」市民の割合」

・当初値を下回った要因は特定できないが、行政財政運営についての市民への周知が不足していることが一因として考えられる。行政の効率化・高度化を図るため、デジタルや先端技術も活用しながら、中核市としての充実した行政サービスと、安定的で持続的な行政運営の推進およびその取り組みを市民に周知していくことが求められる。

●指標13：「1人1日あたりのごみ排出量」

・進捗が良かった要因としては、3Rの推進が市民や事業者に浸透してきていることが考えられる。

●指標14：「不法投棄通報数」

・進捗が良かった要因としては、不法投棄の多い場所を中心にパトロールを実施し、不法投棄の未然防止を図ったことが考えられる。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・夜間中学の学びなおしの取組は大変すばらしい。Inclusiveな教育や国際地域の展開としてしっかりと発信するとともに、評価指標としてもご検討いただきたい。
- ・様式1の指標1と4のマイナス達成度の原因が「市民の治安悪化への懸念」が原因という分析、それに対して刑法犯罪認知件数は減少しているので、体感治安の向上によるイメージアップを行っていくとあるが、市民が感じている心配の深堀りが必要なのではないか。市民の肌感覚は往々にして正しく、治安悪化の前触れである可能性は無視できない。早期の対策で犯罪の発生を防止できる。
- ・川口市が取り組まれている様々な事業を、SDGsに紐づけて、統合的にマネジメントされようご尽力されていることが見て取れる。SDGsを特別なことと思われず、既にやっていること、やろうとしていることが十分SDGsである、という考えで、広く巻き込んでいけばよいと思われる。
- ・モデル事業を、目指す姿である、多文化共生・環境共生のまちの、象徴的な事業として位置づけるくらいの意気込みやロジック形成があっても良いのではないか。
- ・多文化共生を中心に据えても良いのではないか。
- ・カーボンニュートラルの取組、進捗評価指標の検討が必要と考える。
- ・SDGsパートナーの今後の行動展開へのつながり、SDGs特設サイトの利用などの見通しや、SDGs特設サイトとSDGsパートナーとの連携についての説明を期待する。
- ・ポテンシャルは感じるが、具体的な事業に欠けていた印象があるので、それを念頭に計画を改善してほしい。
- ・川口市のSDGs未来都市計画の指標は市民の満足度調査から数値をとっている。具体的なそれぞれの事業にも留意いただきたい。お金をかけてでも取り組むことが大事である。
- ・インクルーシブな取組の中の進捗指標に夜間学校への海外の方々の参加者数という項目を設けても良いのではないか。
- ・SDGsパートナーとして29社が集まったが行政側としても企業任せでは良くないと思う。
- ・カーボンニュートラルの取組について、マクロの取組が多くなっている。

2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組

(1) モデル事業又は取組名

自走・自律支援型、魅力向上型で進めるSDGs 17 色の多様で多彩なまちづくり

(2) モデル事業又は取組の概要

多様な働き方や市内企業等のバックアップ、多様性を尊重するインクルーシブな社会づくり、新美術館を核とした文化と芸術の高揚、再生可能エネルギーの導入促進、都市と自然の共生などに向けて、市民や市内企業等の自律的な取組や将来的な自走を引き出しながら魅力向上を図る、SDGs17 色全色で進めるまちづくりプロジェクト。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2024年実績	2026年目標値	達成度 (%)
【経済】 ①-1 多様な人材の活躍を支える働きやすいまちづくり ①-2 多様な産業を支える中小企業・小規模事業者のバックアップ	①-1 デジタル人材の育成を支援するために、DXに関する知識が習得できるeラーニングを提供した。また、能力開発・資格取得を促進するために、「技能検定等受検手数料助成金」を支給した。 ①-2 中小企業・小規模事業者へのデジタル技術の導入を支援するため、「DX 推進補助金」を支給した。	社員のリスキング・資格取得やDX 推進に取り組む事業所数	2022年度 58 事業所	2024年度 191 事業所	当初値 (58 事業所)を 上回る 2026年	329%
【経済】 ①-1 多様な人材の活躍を支える働きやすいまちづくり ①-2 多様な産業を支える中小企業・小規模事業者のバックアップ	①-1 ①-2 多様な人材の活躍を支える働きやすいまちづくりを行い、多様な産業を支える中小企業・小規模事業者のバックアップを行った。	製造品出荷額等	2020年 4,657.4 億円	データ なし 億円	全国における 伸び率を上回る 2026年	—

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2024年度

2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組

取組名	取組内容	指標名	当初値	2024年実績	2026年目標値	達成度(%)
【社会】 ②-1 多様性を尊重するインクルーシブな社会の実現 ②-2 文化・芸術の高揚／アート・カルチャーでカラフルな日常を	②-1 重層的支援体制整備事業の地域づくり事業を実施し、分野ごとの地域づくり関係事業を、世代や属性を問わない交流の場とするよう促した。 孤独・孤立対策支援事業において、みんなの居場所設置支援助成金を交付し、居場所の設置を促した。	「孤独感・孤立感」の市民意識調査において ①「自分には人と付き合いがないと感じる」に対し「常にある」回答する市民の割合	2023年度 13.9%	データなし	2026年 当初値（13.9%）より減少させる	—
【社会】 ②-1 多様性を尊重するインクルーシブな社会の実現 ②-2 文化・芸術の高揚／アート・カルチャーでカラフルな日常を	②-1 重層的支援体制整備事業の地域づくり事業を実施し、分野ごとの地域づくり関係事業を、世代や属性を問わない交流の場とするよう促した。 孤独・孤立対策支援事業において、みんなの居場所設置支援助成金を交付し、居場所の設置を促した。	「孤独感・孤立感」の市民意識調査において ②「自分は取り残されていると感じる」に対し「常にある」回答する市民の割合	2023年度 3.0%	データなし	2026年 当初値（3.0%）より減少させる	—
【社会】 ②-1 多様性を尊重するインクルーシブな社会の実現 ②-2 文化・芸術の高揚／アート・カルチャーでカラフルな日常を	②-1 重層的支援体制整備事業の地域づくり事業を実施し、分野ごとの地域づくり関係事業を、世代や属性を問わない交流の場とするよう促した。 孤独・孤立対策支援事業において、みんなの居場所設置支援助成金を交付し、居場所の設置を促した。	「孤独感・孤立感」の市民意識調査において ③「自分は他の人たちから孤立していると感じる」に対し「常にある」回答する市民の割合	2023年度 3.5%	データなし	2026年 当初値（3.5%）より減少させる	—

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2024年度

2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組

取組名	取組内容	指標名	当初値	2024年実績	2026年目標値	達成度(%)
【社会】 ②-1 多様性を尊重するインクルーシブな社会の実現 ②-2 文化・芸術の高揚／アート・カルチャーでカラフルな日常を	②-1 自校への登校が難しい生徒を対象にした学校である学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)の設置について、2026年度の開校に向け体制を整備し準備を進めている。	夜間中学において学び直し等に取り組む生徒数	2023年11月 41名	2025年5月1日 87名	2026年 学びたい人を可能な限り受け入れる	100%
【社会】 ②-1 多様性を尊重するインクルーシブな社会の実現 ②-2 文化・芸術の高揚／アート・カルチャーでカラフルな日常を	②-2 市立美術館を建設し、新たな文化・芸術の創造発信拠点として整備中。	「川口市は文化・芸術活動などがしやすい環境が整っているまちだと感じる」市民の割合	2023年度 32%	2024年度 33.9%	2026年 50%	11%
【環境】 ③-1 身近な自然、緑、水辺、生態系の保全と創出 ③-2 ゼロカーボンシティの実現	③-1 雨水の流出抑制対策として、グリーンインフラを活用した公園及び街路緑地帯の整備を行った。	「川口市は豊かな水と緑に親しめる場所があるまちだと感じる」市民の割合	2023年度 45.6%	2024年度 40.9%	2026年 当初値(45.6%)を上回る	90%
【環境】 ③-1 身近な自然、緑、水辺、生態系の保全と創出 ③-2 ゼロカーボンシティの実現	③-2 地球温暖化対策活動支援金を活用し環境負荷の低減に取り組んだ。	地球温暖化対策活動支援金を活用し環境負荷の低減に取り組んだ件数	2022年度 1,026件	2024年度 965件	2026年 1,100件	-82%

2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標7：「川口市は文化・芸術活動などがしやすい環境が整っているまちだと感じる」市民の割合
・達成度が25%未満となった要因は、市の文化・芸術活動の中心となっている川口総合文化センター・リリアが現在改修工事で休館中であることが一因として考えられる。しかしながら、前年度より1.9%増加していることもあり、川口総合文化センター・リリアや美術館を含めた川口駅西口周辺を、文化芸術の創造発信拠点として活用する。
- 指標8：「川口市は豊かな水と緑に親しめる場所があるまちだと感じる」市民の割合
・当初値を下回った一因として、開発圧力の高まりによる都市化の進行に伴う緑地面積の減少が考えられる。都市のレジリエンス向上等、緑地が持つ多様な機能が発揮される都市の実現を目指し、特別緑地保全地区の指定や公有地化を進める。
- 指標9：「地球温暖化対策活動支援金を活用し環境負荷の低減に取り組んだ件数」
・達成度が25%未満であるが、支援支給金額は増加しており、予算額に達し受付を終了したため件数が目標に達しず、記載の進捗状況となった。また、支援メニューにより支給金額が異なり、金額の多いメニューのシステムの申請が多かったことも要因に考えられる。引き続き、温室効果ガス削減やエネルギーの効率的な利用を促進するため、地球温暖化対策活動に取り組んだかたへ支援を行う。
- 指標1：「社員のリスキリング・資格取得やDX 推進に取り組む事業所数」
・進捗が良かった要因としては、導入にデジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプTYPE1)を活用したデジタル人材育成オンライン講座が好評であることが考えられる。受講者は期間中、オンライン学習プラットフォームUdemy Businessを利用し、IT・DXの基礎知識、PCスキル、ビジネススキルなど様々な動画コンテンツの中から、自分の学びたいことを自由に選択し学習することができる。

2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

資材置場からはじめる「課題の縮図」解消プロジェクト

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

緑農地の減少が進む区域において、駅周辺における緑地創出を伴う建築行為の合理的緩和、不適切な土地利用に対する規制の強化、特に貴重な自然環境が残っているエリアの公有地化、脱炭素型ライフスタイルへの転換、都市農業の活性化等により、資材置場等以外の用途を模索し都市と自然の共生を図るプロジェクト。

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇔環境	経済⇔社会	社会⇔環境
【経済→環境】 緑を伴う居住環境形成による田園的自然環境の創出・保全 【環境→経済】 再生可能エネルギーの地産地消による地域内の経済循環	【経済→社会】 まちの賑わい創出、周辺地域の魅力向上 【社会→経済】 企業のブランド力、信頼性、魅力や集客力の向上	【環境→社会】 環境の未来の担い手増加 市民のWell-being向上 【社会→環境】 市民や企業の脱炭素やSDGsを踏まえた行動変容

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2024年実績	2026年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】 川口市優良郊外型住宅制度認定件数	2022年度 1件	2024年度 1件	2022年度を上回る	100%
2	【環境→経済】 地球温暖化対策活動支援金における発注先が市内業者である件数	2022年度 191件	2024年度 143件	2026年 210件	-253%
3	【経済→社会】 市内農産直売所の数	2023年11月時点 8カ所	2024年度 8カ所	2023年11月時点を上回る	100%
4	【社会→経済】 川口市SDGsパートナー団体数	2023年 0	2024年度 29	2026年 100	29%
5	【社会→経済】 (仮称)「かわぐちSDGsポイント」制度 活用者数	2023年 制度なし	2024年 制度なし	2026年 1,000人	—
6	【社会→環境】 「SDGsの目標達成のために取り組んでいることがある」と回答する市民の割合	2023年 44.4%	2024年 47.9%	2026年 60.0%	22%
7	【環境→社会】 夜のいきもの観察会応募数	2022年度 298組	2024年度 790組	当初値(298組)を上回る	265%
8	【環境→社会】 エコライフDAY参加人数	2023年度 63,279人	2024年度 64,455人	2026年 80,000人	7%
9	【環境→社会】 条例に反する不適切な資材置場の件数	2022年 不明	2024年 不明	2026年 0	—

2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組（三側面をつなぐ統合的取組）

（5）自律的好循環の形成に向けた取組状況

①川口市SDGs 特設サイトの新設

公民連携SDGs プラットフォームの土台として、2025年3月に川口市SDGs 特設サイトの開設した。本市が推進するSDGs 関連事業の情報発信をはじめ、SDGsに関する基本的な知識についてのわかりやすい解説、川口SDGsパートナーの活動紹介等を行いSDGsの推進を図っていく。

②「SDGs 教育」の推進

・エコ・スクール、環境出前講座等を160回開催した。

・リサイクルプラザにおいて、次世代を担う子どもたちや子育て世代を対象として、楽しみながら環境について学べる参加体験型のイベント「環境フェスタ」を開催した。

（6）「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標2：「地球温暖化対策活動支援金における発注先が市内業者である件数」

・達成度が25%未満であるが、ネット通販で購入できる機器の支給件数が増えたことや、市内業者を活用しやすいシステムの支給件数が減少したことが要因で記載の進捗状況となった。引き続き、温室効果ガスの削減やエネルギーの効率的な利用を促進するため地球温暖化対策活動に取り組んだかたへ支援を行い、市内業者の活用による地域産業の活性化、地域経済の振興を図る。

●指標6：「SDGsの目標達成のために取り組んでいることがある」と回答する市民の割合」

達成度が25%未満になった要因は、SDGsに関する普及啓発が足りなかったことが考えられる。昨年度より2.5%増加しているため、今後も川口市SDGs 特設サイトを活用し、市内外へSDGsの情報を発信し、普及啓発を図る。

●指標8：「エコライフDAY参加人数」

・達成度が25%未満ではあるが、当初値より1,176人増加している。今後も、川口発の取組である「エコライフDAY」の開催を通じて、カーボンニュートラルの実現に向けた意識啓発を図る。

●指標9：「条例に反する不適切な資材置場の件数」

・現状では不明だが、「川口市資材置場の設置等の規制に関する条例」の見直しを進めており、今後把握していく予定である。

●指標7：「夜のいきもの観察会応募数」

・進捗が良かった要因としては、当初1カ所の会場で年1回実施していたものを、3カ所の会場で年5回の実施に増やしたことが考えられる。アンケート等でも好評をいただいている。